備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度		昭和５６年度～		根拠法令・例規等	社会教育法第２０条
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）：中央公民館
	中項目	基本施策	02	生きがいのあるまちづくり	職・氏名：館長補佐　山口晋作
	小項目	施策	04	公民館	電話：６４－１１３３
事務事業名			03	中央公民館運営事業	このシート作成に要した時間：4.5 時間

事業の目的

対象（誰・何に対して）	公民館活動の認定団体、定期講座の参加者、文化協会
目的（何のために）	地域文化向上のため、学習の場と機会を提供する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	定期講座や文化祭の開催により、多く人に自主学習に参加してもらう。

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
中央公民館管理運営事業	文化事業の開催、各種団体等の連絡調整	◎
文化協会活動補助金	備前・日生地域の文化協会に対する補助金	○
県公民館等振興会市町村負担金	公民館活動の発展と振興を目的に職員の研修、情報交換等の事業を行うための団体の負担金	△
県文化連盟会費	県内の様々な分野の文化団体、文化協会の運営に携わる公益法人、地方自治体等からなる社団法人の会費	△
中央公民館運営審議会事業	館長の諮問に応じ各種事業の企画実施について、調査審議する。	◎
市民講座	備前焼講座、ガラス細工講座などの定期講座を開催	◎
文化祭	備前市美術展覧会及び各種展覧会、発表会を開催	◎

決算額

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
事業費	直接事業費	千円	1,327	1,095	1,109
	必要人員　人件費	千円	1.00人　5,512	0.55人　4,053	0.68人　4,356
	事業費計	千円	6,839	5,148	5,465
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円	158	126	135
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（　）	千円			
	一般財源	千円	6,681	5,022	5,330
受益者負担比率		%	2.3%	2.4%	2.5%

結果指標

結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
定期講座参加者数		説明	中央(備前地域)公民館講座の参加者数		
	結果指標量	事業	216	119	124
	対前年比	%	－	55.1%	104.2%
	活動コスト	円	6,839,000	5,148,000	5,465,000
	単位当たりコスト	円	31,662	43,261	44,073

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
定期講座参加者数	目標値（A）	200	200	200	200
	実績値（B）	216	119	124	到達目標値
	達成率（B/A）	108.00%	59.50%	62.00%	毎年度

成果指標設定の考え方・式や説明：中央公民館での主催講座における参加者数

事務事業の評価

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：C

効率性の評価

コスト手段

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☑ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：C

有効性の評価

目的達成度・市民参画度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☑ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：C

進行年度（H22年度）の改革改善内容

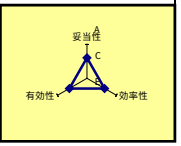
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

説明：文化祭の参加人数、出展数を昨年以上に増やし文化祭を活性化する。また、H21年度まで行われていた主催講座の備前焼講座に代わる新規講座を開設する。

総合評価

文化祭の出展点数が前年度を上回り事業の活性化が図られた。

評価区分 <A～E>：C



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○	○				

取組目標：新たなグループ団体の結成を促し公民館活動を活発化させるため、定期講座を通じてグループ活動の推進を図る。受益者負担の原則からH23年度から認定団体及び文化協会からも冷暖房費を徴収していく。